

# 熊本県阿蘇地域におけるエゴマの生育特性およびコンバイン収穫適期

○山戸陸也・岩本英伸<sup>1)</sup>  
(熊本農研セ高原・<sup>1)</sup>上益城地域振興局)

## 【目的】

中山間地域では鳥獣害対策に苦慮している。シソ科のエゴマは、独特の成分などによりシカ、イノシシなどの被害を受けにくいですが、九州での栽培事例は少なく、栽培技術が十分確立されていない。

そこで、各地で栽培されているエゴマ在来種の中から阿蘇地域に適する品種を選定し、播種適期について検討した。また、収穫ロスが課題となっているコンバインでの収穫適期について検討した。

## 【材料および方法】

品種選定試験は2017～2019年に高原農業研究所(阿蘇市一の宮町、標高543m)で実施した。供試品種は県内で栽培例のあるものや一般的に購入可能な在来種12系統を用い、5月10日、6月1日および20日、7月10日および20日を基準とした5回、128穴セルトレイに1粒ずつ播種後雨除けハウスで育苗し、約25日後に定植した。栽植様式は条間75cm株間50cmの1本植えとした。1区面積は15㎡2反復とした。収穫ロス試験につ



図1 収穫適期頃のエゴマ

表1 エゴマの開花・収穫期と収量

播種期	田村種中生黒				田村種中生白				島根在来			
	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収量 (kg/10a)	生育 障害	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収量 (kg/10a)	生育 障害	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	収量 (kg/10a)	生育 障害
5月10日	9.07	10.07	56	0.7	9.11	10.11	49	0.0	9.17	10.23	61	0.0
6月1日	9.08	10.09	61	0.0	9.11	10.12	51	0.0	9.18	10.25	63	0.0
6月20日	9.08	10.10	51	0.0	9.10	10.13	54	0.0	9.19	10.27	63	0.0
7月10日	9.12	10.15	44	0.0	9.13	10.17	51	0.0	9.20	10.28	51	0.0
7月20日	9.15	10.21	28	0.0	9.18	10.20	32	0.0	9.22	10.30	32	0.0

注1) 2018年～2019年の平均値で、開花期は半分以上の株が開花初めになった日、収穫期は葉が半分以上落葉した日とした。

注2) 生育障害の発生程度は、0(無)、1(微)、2(少)、3(中)、4(多)、5(甚)で示した。

いては高原農業研究所内および、南阿蘇村の現地で、K社の汎用コンバイン ARH350 を用いた。

## 【結果および考察】

品種選定では、早生種は日長反応によると思われる生育障害が見られ、晩生種では収穫期前に霜害を受けた(データ略)。このことから、中生種の「田村種中生白」「田村種中生黒」「島根在来」の3系統が阿蘇地域に適すると考えられた。

播種適期は6月1日から7月10日頃までと考えられた。5月10日播種では中生種でも日長反応によると思われる生育障害が見られる場合があり、7月20日播種では生育量が確保できないまま開花して収量が大幅に低下した(表1)。

汎用コンバインを用いた収穫では、エゴマの葉が黄化して半分程度落葉した頃から落葉終わりまでに刈り取ることでコンバイン収穫ロスを低減できた(図1、図2)。

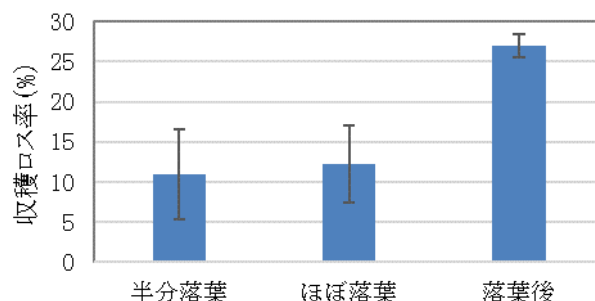


図2 落葉程度とコンバイン収穫ロス率の関係

注1) コンバインはK社のARH350を使用した。

注2) 縦線は標準誤差を示す(n=3)